



# 新しい時代に 向けて

学長 丹治 光浩

## 学長挨拶



昨年は新型コロナウイルス感染症への対応に追われる一年でした。オンラインピック・パラインピックを始め、さまざまなイベントが中止、あるいは延期となり、職場ではテレワーク、学校ではオンライン(遠隔)授業が一気に普及しました。一方で、G・O・T・o・キャンペンや持続化給付金などの政策によって経済と感染対策のバランスも模索されました。

しかし、感染拡大を完全に抑え込むことができず、(この原稿を書いている)1月には遂に2度目の緊急事態宣言が発出されました。ワクチン開発や治療技術の進歩が期待されている反面、世界各地で変異種が報告され、今後もウイルスとの戦いが続くものと考えられます。

このような中、仮に感染症が収束しても、私たちは単にこれまでの生活に戻るのではなく、ニューノーマルといわれる新たな世界が待ち受けているという人もいます。たとえば、教育現場ではオンライン授業の有効性が明らかになり、今後も積極的に取り入れられるものと思わ

れます。かといって、対面授業の重要性が否定されたわけではありません。私たちには必要に応じてそれらを使い分けることが課せられているのです。

また、昨年は従来の形でのオープンキャンパスを実施することができず、多くの大学がウェブを使ったオープンキャンパスを実施しました。直接大学を訪問して見学するのに比べ、実感がつかめないという声もありますが、それ以上に多くのメリットもあり、オンライン授業と同様に今後もウェブ開催が併用されると予想されます。

花園大学は現在、創立150周年記念事業の一環として新校舎の建設を急ピッチで進めています。そこにはニューノーマルにふさわしい教育設備が多数導入される予定ですが、その価値は利用者である私たち一人ひとりの行動によって大きく変わります。重要なことは物事の本質を見極める洞察力と、状況に応じて適切な判断を下す柔軟な心ではないでしょうか。

## 次期学長決定のお知らせ

11月25日の学園理事会におきまして、次期花園大学大学長に、現在、名古屋大学アジアサテライトキャンパス学院の学院長で特任教授の磯田文雄氏の就任が決定されましたのでお知らせいたします。

### プロフィール

新学長

いそだ ふみお  
磯田 文雄

就任日

2021年4月1日(任期4年)



- 略歴 1953年4月27日生まれ(67歳)
- 1977年3月 東京大学法学部卒業(法学士)
- 1982年6月 スタンフォード大学大学院修了(政治学修士、教育学修士)
- 1977年4月 文部省入省
- 2004年4月 筑波大学理事・副学長
- 2006年10月 文部科学省高等教育局私学部長
- 2008年7月 文部科学省研究振興局長
- 2010年7月 文部科学省高等教育局長
- 2012年1月 東京大学理事
- 2014年3月 文部科学省退職
- 2014年8月 名古屋大学アジアサテライトキャンパス学院学院長・教授
- 2019年4月 名古屋大学アジアサテライトキャンパス学院学院長・特任教授(現在)

## 後援会から 緊急学生支援 を行いました!



10月1日から、全学生対象に学内の食堂や売店・書店で使える12,000円分チケットを配布しました。

新型コロナウイルス感染症拡大のため、自粛生活が続く、前期の授業のほとんどがオンラインになるなど、慣れない環境下での学修で大変な苦労を強いられた学生たちのために、後援会から緊急学生支援を行いました。

後期からは対面授業が再開されたこともあり、後援会からの《緊急学生支援》として、学生全員に、学内の食堂や売店、書店などで2月末まで使える1万2千円分のチケットを10月1日から配布しました。

あらかじめ郵送された「引換券」と学生証提示で、1万2千円分のチケットと交換します。チケット引換所では、深々とお礼を言って受け取る学生の姿、チケットを手にするや食堂に直行する学生の姿、普段買えなかった本やグッズを買い求める姿など、一様に笑顔が見られ、キャンパスにも以前のような活気が戻ってきました。



▲写真は、チケット引換所での学生たちの様子です。



# STOP! COVID-19

## 新型コロナウイルス感染症対策 2020年度の取り組み

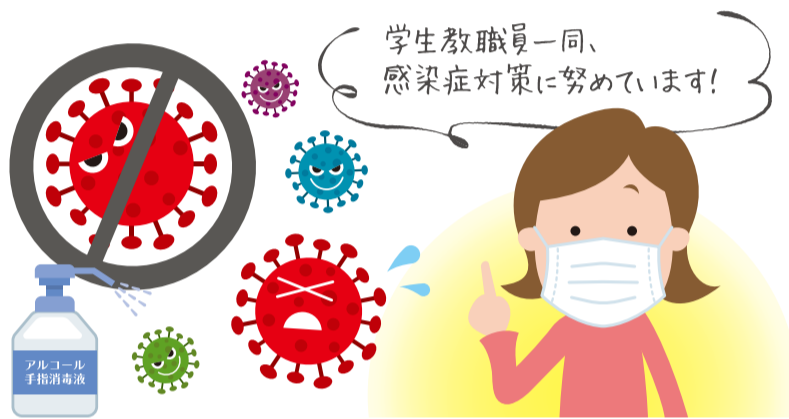


2020年度は、新型コロナウイルス感染が拡大するなか緊急事態宣言も発出され、前期の全ての授業については、原則オンライン授業(実習の前提科目等については、6月より一部対面授業を実施)とすることとしました。後期には、ほとんどの授業を対面授業として開講し、受講者数の概ね2倍以上が入れる定員の教室で、座席間隔を空けて授業を実施しましたが、受講者数の多い大人数講義等については、間隔を空けた座席確保が困難なため、引き続きオンデマンド授業で対応しました。なお、学校法人花園学園常勤理事等の皆さまからコロナ禍の教育環境整備緊急支援の寄付をいただいてiPadを50台購入し、オンライン授業等に支障のある学生さんに貸与しました。

授業を再開するにあたり、教室や廊下の窓やドアを開放して換気に努め、毎朝の清掃、消毒作業も実施しています。教員に対しては授業用フェイスガード、除菌シート等を用意して徹底した感染対策を講じております。始業前と休み時間には正門、西門、拈花館入口で、学生教職員一人ひとりへの検温を実施し、手指消毒を促して声掛けをするなど感染予防に努めました。

学生食堂についても、座席制限のうえ、飛沫感染防止アクリル板を設け、時間短縮・メニューを減らして再開しました。ランチタイムには、職員が見回りを実施し、感染防止につとめました。

課外活動については、各団体から活動計画書等の提出を求め、活動に参加する学生の集団における感染症対策の徹底を要請したうえで許可し、活動を再開しています。



## キャンパス整備事業

― 楽道館、返照館など ―



2022年に花園学園創立150周年を迎える記念事業として、まず「楽道館」が2020年9月1日に完成し、同10日にランドオープニングセレモニーを挙行了しました。

後期から対面授業が再開し、教室として利用されています。全フロロジエタを備え、机や椅子はアクティブ・ラーニングに適したものを導入しました。新返照館完成後には、「楽道館」の名前の由来通り学生会館として使用されることとなります。

さて、返照館は10月から解体工事に入り、2月から本学高橋克壽先生が考古学研究室の学生と一緒に埋蔵文化財の調査を実施します。

建築工事は2021年春に始まり、2022年6月創立記念式典に合わせて完成します。

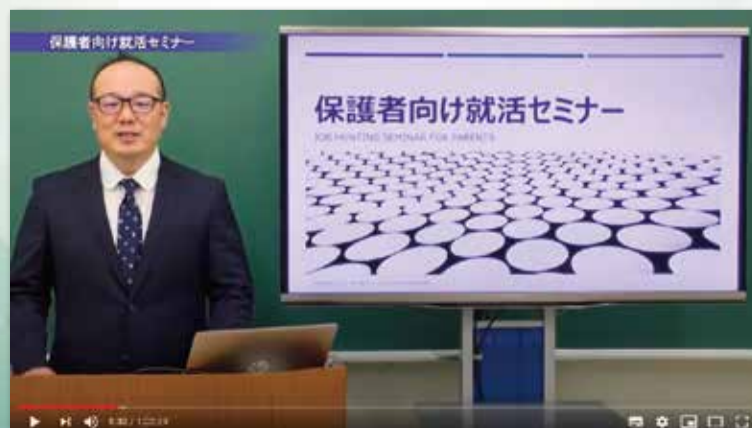
完成後には現在の学生会館とトレーニングルームが解体され、西小路通側から大きなヒマラヤスギが見える景観になる予定です。

## 就職支援



新型コロナウイルス感染症は、2020年3月から一気に広がりを見せたため、就職活動イベントは、相次ぎ中止となりました。前期は、学内への入構禁止、原則オンライン授業となり、本学の就職ガイダンス等についてもオンラインや映像配信に切り替えをいたしました。本学の就職支援の特徴である「個別面談」は、電話・メール・WEBを活用した相談体制を速やかに整え、帰省先や自宅からひとりひとりの希望に合わせた相談方法で、現在も途切れることなく実施しています。

今年度は、就職・教育懇談会の中に伴い、「保護者向け就職活動セミナー」を初めてオンラインで配信いたしました。企業採用コンサルティングや大学等で就職支援講座の経験が豊富な株式会社コミュニティの濱中倫秀氏を講師に迎え、コロナ禍の中、大きな転換期を迎えた昨今の就職活動について、講演をいただきました。また、みなさまに少しでも安心いただければと、本学構内や感染予防対策など、大学の様子を同時に映像化したしました。引き続き、感染防止のための万全な対策構築とともにICTを活用した進路選択・職業選択に向けた更なる支援の充実を図ってまいります。





# 大学摂心



毎年、後期授業が始まる直前に行っています大学摂心ですが、本年度は9月17日(木)に南禅寺、翌日の18日(金)には花園大学禅堂にて開催を予定しておりました。

しかしながら、ご承知の通りコロナウイルスが蔓延し、一堂に会しての摂心はクラスター発生の恐れもあるため、急遽予定を変更し、横田南嶺総長に摂心についてのオンデマンド動画を作成して頂き、おのおの自宅にて坐禅をしつつ、総長のお話を拝聴する形式に変更致しました。

横田総長には、大学のホームページにアップしています「令和二年花園大学摂心」の「大燈国師遺誡に学ぶ」という題材でお話を頂戴いたしました。学生たちには動画を通して禅の心、建学の精神に触れてもらいました。

# —2020年度公開講座— 禅とこころ



横田南嶺総長の講義を動画配信しています▶

2020年度の「禅とこころ」は、新型コロナウイルスの感染の拡大にとまらぬ、ご来場の皆さまの健康と安全の確保、また感染拡大防止の観点から、学生のみ受講とし、公開講座として一般の方(科目等履修生・聴講生を含む)の聴講は、ご遠慮いただきました。なお、学生向けに配信している総長の講義のみ、大学ホームページから公開しておりますので、どうぞご覧ください。

動画は [こちら](https://www.hanazono.ac.jp/event/open/001321.html) 大学HP>イベント・一覧>公開講座>2020年度公開講座 禅とこころ

# 前期学位記授与式

9月30日。日が暮れかけた頃、教室ホールにて、2020年度前期学位記授与式を挙行了しました。例年と違って今年度は、卒業生が広く間隔を空けて着座し、演台には飛沫拡散防止のためのクリアパネルを置き、十分に換気を行うなど、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しての開催となりました。

丹治光浩学長から卒業生一人ひとりに学位記が手渡された後、丹治学長が式辞を述べ、佐々木閑文学部長、小海宏之社会福祉学部長が巣立つ卒業生に向けて言葉を贈りました。式終了後、卒業生はご臨席の松井宗益学園長と丹治学長を囲んで、「マスク」をつけたままで記念撮影をしました。記憶に残る前期学位記授与式になりました。



# 本能寺の変の 実像に迫る



「本能寺の変」をめぐって」として、

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、来場者をお断念せざるを得ませんでした。が、昨年度の講演会

「本能寺の変」について概説、司会進行・コーディネーターは、同じく文学部日本史学科教授の松田隆行先生が務めました。質疑応答では、学生と講師陣が、座談会のような雰囲気活発に意見を述べ合う場面がありました。

明智光秀は、2020年度NHK大河ドラマの主人公、クライマックスとなった「本能寺の変」は、なぜ起こったのか? 主君、織田信長を討った逆臣として語られてきた明智光秀だけではない、その他の重要人物にもスポットライトをあて、

花園大学公開講演会  
「本能寺の変の実像に迫る」  
視聴方法はコチラ▶

YouTubeチャンネル  
「BASE花ここ/花園大学地域連携教育センター」  
<https://www.youtube.com/channel/UCPPwh310psXrxy11G1J2Clw>

# 人権週間 第三十四回 花園大学人権週間報告

2020年の年明けとともに世界中を襲った新型コロナウイルス感染症の影響により、34回目となる花園大学人権週間はネット配信で開催しました。



木先生による座談会。企画3は「集まれないけど、つながるために」コロナ禍と子どもの人権。幸重忠孝さん(NPO法人こどもソーシャルワーカーセンター理事長)からの問題提起に続き、吉永先生、学生の小林光長さん、宇都宮浩生さんも加わって座談会。というラインナップでした。

# イザ!カエルキャラバン! in はなぞのだいがくムービー!

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、子どもたちを迎えて開催することを断念せざるを得ませんでした。「イザ!カエルキャラバン」ムービー版を制作し公開することにしました。撮影は、2020年12月5日、自適館にて、昨年度スタッフとして参加してくれた硬式庭球部20名、2019年度キャリア科目「課題解決プログラム」受講生3名、計23名の学生が出演して行いました。

撮影した動画は、「防災グッズクイズ」「大雨避難間違い探し」「紙食器づくり」「ゴミ袋でポンチョづくり」「毛

布で担架、そして「花園大学オリジナルシナリオ版おたま劇場」など。

動画は、パペット人形を使ったり、実演をしたり、何でも撮り直しを重ねて撮影をしました。

撮影した動画は、できるだけたくさんの子どもたちに見てもらえるよう、チラシ等で地域や区役所、保育園・幼稚園・小学校などに案内をしました。

「イザ!カエルキャラバン! in はなぞのだいがくムービー」は、地域連携教育センターYouTubeチャンネル(BASE花ここ)からご覧いただけます。

YouTube「BASE花ここ」



主催:花園大学 制作:花園大学地域連携教育センター  
協力:NPO法人プラス・アーツ/中京区役所/右京区役所/左京区役所





ラグビー部

ラグビー部は1994年に創部され、Aリーグを目指して日々練習に励んでいます。Aリーグとの入れ替え戦に過去5回挑んでいますが惜しくも勝利を逃してしま...



今年度の活動は新型コロナウイルス感染症が広がりをみせたため、春の活動自粛から春季オープン戦やチャレンジリーグ、夏合宿までも中止となり、7月の時点で秋本番のリーグ戦の中止も決定、それに伴い入れ替え戦の中止も決定し、選手たちにとり、実質の今年度の目標がなくなってしまうことになり、4回生の選手にとっては試合をする機会もなくなってしまうことになり、練習試合の代わりにならざるを得ない状況です。この経験を、選手たちは頑張りました。この経験を、チームにつなげていきたいと思っています。

硬式野球部

硬式野球部は選手38名、スタッフ3名の計41名で活動しています。2020年度、秋季リーグ戦は4位という非常に悔しい結果となりました。しかし、東監督の下チームは変革期を迎えており、下級生主体で臨んだ秋季リーグ戦では非常に大きな経験を積むことができました。現在は春季リーグ戦に向け選手個々の技術向上、体力向上に励んでいる真最中です。



昨シーズンは新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、春季リーグ戦の中止、2ヶ月間の活動停止、秋季リーグ戦の試合数の削減などこれまでに経験したことのない難しいシーズンとなりました。活動停止期間中は選手個々の練習をしていました。しかし、特に野球は個人だけで成り立たず、改めて組織で動くという重要性を感じました。秋季リーグ戦へ向け活動再開後は、検温手洗い・消毒、マスク着用の徹底、ソーシャルディスタンス確保などに細心の注意を払ってまいりました。コロナ終息の見通しが立たない中、学生野球を再開できたのは、京滋リーグ関係者の方々をはじめとする様々な方々のお陰であると感謝しています。我々は明治神宮大会への出場を第一の目標に掲げています。学生らしい野球をモットーに挨拶、返事、全力疾走を徹底し日々努力いたします。コロナが終息した際には是非球場にお越しください。2021年度も変わらぬご支援、ご声援のほどよろしくお願い致します。

新体操部

新体操部は今年度で創部30周年を迎えることができました。皆様を支えられて今年度の全日本新体操選手権大会では男子団体が3位になりました。女子新体操部も男子に負けないよう日々切磋琢磨し、部員8名と監督との寮生活をしています。集団生活ならではの苦勞や、楽しさを感じながら生活しています。そして今年度はコロナウイルス感染症が世界的にも大流行し、だれも経験したことのない状況にとても悩みました。学校生活も大きく変わりました。オンラインでの授業が始まり、体育館は使用不可となりました。それでも学生たちは沈むことなく、今やれることに取り組みました。試合ができる見通しは立っていませんでしたが、自転車をこいで外で練習できる場所を必死に探し出しました。また、人に迷惑が掛からないように時間も早朝や夜間にしました。それでも世間では外出自粛が広がり、今、自分でできることを考え、家でのトレーニング、審判の勉強、新しい技の収集などを行いました。学生たちは、様々なアイデアのおかげで約2か月間という長い自粛期間を有意義に考え過ごすことができました。オンライン授業も初めての経験でしたが寮生活のおかげで助け合いながら乗り越えました。感染症対策をしながらの生活を息苦しく感じることもありましたが、今となっては貴重な思い出です。次年度は男女そろって全日本出場ができるよう全力で頑張ります。



剣道部

剣道部は昭和43年創部、現在は元大阪府警の船津晋治先生(範十八段)を師範に迎えて週に6日程度稽古に励んでいます。先輩後輩の隔たりなく、仲の良い部活でもあります。技術や精神面だけでなく礼儀を学べるのが剣道の特徴です。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、6月末まで活動が出来ませんでした。6月27日から活動を再開することができましたが、そこから2週間は防具をつけることが出来ず、素振りや筋トレなどのトレーニングをしていました。7月15日から防具をつけての練習が許可されましたが、発声の自粛や練習時間の制限、全剣連で規定されているマスクを着用しながらの稽古など、経験したことのないことばかりで不安な気持ちが続いていました。今年度の大会は全て中止となり、4回生はやりきれない気持ちのまま引退となってしまいました。新型コロナウイルスは終息するのか、次年度は大会があるのか、予測できない不安な日々が続きますが、今できることを精一杯剣道部一丸となって頑張ります。男女共に全日本学生剣道優勝大会出場を目標に、そして全日本で勝つことを目標にこれからも日々の稽古に励んでいきますので応援のほどよろしくお願い致します。

弓道部

弓道部は現在、20名の部員で活動しています。部員の中には大学から弓道を始めた初心者もおり、それぞれが自分に合わせた練習に取り組むことで、ステップアップを図っています。今年度はコロナ禍の影響で様々な変化がありました。春から多くの記録会、大会が中止となり、自粛期間もあってなかなか練習できませんでしたが、6月頃から弓道場を活動できるようになりましたが、安全面に配慮し集まるのは避け、自主練習という形で活動しました。後期から本格的に活動を始め、現在は多くの制限を設けた活動計画にのっての練習を行っています。弓道はもとも危険を避けるために十分な距離をおいて行う競技であるため、射を行うことについては通常通りですが、指導をする際に身体が触れるような指導は避ける、口頭での指導時には2メートル以上の距離を置くこととした他、的中時の掛け声の禁止などを行っています。今後の活動としては、次年度以降の試合で結果を残せるよう、一層練習を重ねていきます。また、例年参加していました京花祭等、学内の行事に積極的に参加して、多くの方に弓道についてより知ってもらえるような機会を作れるよう努めていきたいと思っています。



準硬式野球部

準硬式野球部は、現在3回生6名、2回生8名、1回生5名で活動し、京滋六大学連盟に所属しています。2020年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、なかなか思うように活動ができませんでしたが、活動自粛中は大学のグラウンドが使用できなかったため、各自家で自主練習となりました。新入生勧誘も直接新入生に接して勧誘ができなかったため、InstagramやTwitterに練習風景を投稿し、準硬式野球部の魅力などを発信しました。前リーグ戦では、チャンスで打てなかったり、ピンチの場面エラーが多かったりという場面がみられましたが、こころよく



硬式庭球部

硬式庭球部は、12月現在の今、主に1回生から3回生で活動しています。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、練習もなかなか通常通りということが難しい状態が続いています。一時は、大学全部の部活が活動中止となりました。7月から徐々に活動ができる状態にはなりましたが、現在は3時間という限られたなかで活動しています。そのため、勧誘も不十分ではありましたが1回生が数名入部してくれました。また、毎年夏に行われる関西大学対テニスリーグ戦は、代替試合として11月頃に開催されましたが、今年度は辞退させて頂きました。なお、夏合宿も中止にしました。まだまだ、新型コロナウイルスが落ち着きそうではありませんが、限られた時間で各々ができることを精一杯やるようにしていきたいと思っています。引き続き、勧誘・練習を行ってまいりますので、今後もよろしくお願い致します。なお硬式庭球部は、今年度創部40周年という節目の年になりました。5年ごとに祝賀会を開催しており、本来であれば11月頃に40周年祝賀会を行う予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、やむなく中止とさせて頂きました。残念ながら、今年度の状況も見通しがつかないため、次回の開催は5年先の45周年とさせて頂きました。

